「岐阜市立新大学基本計画（改定案）」に対するご意見とそれに対する岐阜市の考え方

意見募集期間　　令和８年９月１６日　～　令和８年１０月１５日
意 見 提 出 数　　１９通（直接提出：２通、郵送：１通、ファクシミリ：０通、電子メール：１通、意見提出フォーム：１５通）
意 見 項 目 数　　６８件

項目	該当箇所	いただいたご意見の概要	岐阜市の考え	変更の有無
２．新大学（新学部）のグランドデザイン				
１	4 ページ	「学力中間層」の定義や進学実態について、根拠となるデータを明らかにすべきである。	「学力中間層」については、特定の偏差値等によって一律に定義するものではなく、県内高校生の進学状況や進学先の現状等を踏まえ、本計画において用いている表現です。 本計画では、岐阜県から大学に進学する高校生の約 8 割が県外へ進学していることや、県内大学における理工系分野の定員割合が全国と比較して低いことなどを踏まえ、県内の多様な学力層の高校生に対し、新たな進学先を提供することを目的としております。 いただいたご意見を踏まえ、今後も計画に係る考え方や根拠について、分かりやすい情報提供に努めてまいります。	無
２	5 ページ	学校法人 東京理科大学の幹部や教員から助言を受けるべきである。	岐阜市立大学（仮称）の整備に当たっては、他大学の先進的な取組事例や運営手法等も参考にしながら検討を進めてまいります。また、大学間連携や教育研究環境の充実に向けて、幅広く情報収集に努めるとともに、他大学の知見も参考にしながら魅力ある大学づくりを進めてまいります。 いただいたご意見につきましては、今後の検討の参考とさせていただきます。	無

３	7 ページ	母校である岐阜薬科大学の名前を残した大学名にして欲しいです。	本基本計画（改定案）では、岐阜薬科大学から継承する薬学部と、市立女子短期大学の教育研究を発展的に継承した創造理工学部（仮称）の、２学部体制による岐阜市立大学（仮称）の開学を柱としています。両大学が長年にわたり培ってきた伝統や歴史、教育研究の実績を継承するとともに、それぞれの強みを融合、発展させることで、教育研究機能の拡充と大学としての総合力の向上を図るものです。また、２学部体制とすることにより、地域や産業界との連携の幅が広がり、これまで以上に地域社会に貢献する大学となることが期待されるところです。そのため、大学名称の検討に当たっては、基本計画に示す理念や目指す姿を念頭に置きながら、生徒、学生、企業、市民、全ての人に選ばれ親しまれる大学にふさわしい名称となるよう検討してまいります。 また、新学部の教育研究内容については、地域や社会のニーズを踏まえながら、既存学部との連携による特色や、大学全体としての強みを活かし、充実したものになるよう検討してまいります。	無
４	7 ページ	「岐阜市立大学（仮称）」構想に反対します。「岐阜薬科大学」の名称を維持した上で、既存の薬学部に加え、医薬情報科学やウエルビーイングデザインなどを学ぶ「生命理工学部（仮称）」を新設することを提案します。 その理由は、長い歴史と高いブランド力を持つ岐阜薬科大学の名称を残すべきであること、医療・薬学・健康・福祉分野に特化した大学とすることで学部間の相乗効果や特色を高められること、岐阜薬科大学の評価や優秀な受験生の確保につながることです。		無
５	7 ページ	大学名称は「岐阜薬科大学」を維持し、英語名称を変更するとともに、新学部は「理工学部」、学科は「情報科学科」「社会工学科」とすべきである。		無
６	8 ページ	人口減少や厳しい財政状況を踏まえると、岐阜市立女子短期大学については存続を前提とせず、その設置意義や行政が高等教育を担う必要性を改めて検証し、廃止を含めて検討すべきである。	本市では、少子化や短期大学への進学者の減少など、市立女子短期大学を取り巻く環境の変化を踏まえて将来構想を策定し、本市が高等教育を担う意義や新大学の必要性、全体像について議論を重ねてまいりました。 その上で、国の高等教育政策や地域・産業界の人材需要等も踏まえ、市立女子短期大学が培ってきた教育の成果を継承・発展	無

7	8 ページ	少子化による 18 歳人口の減少や高等教育を取り巻く環境の変化を踏まえると、新大学設置を前提とせず、岐阜市立女子短期大学の円滑な終了を含めて計画を再検討すべきである。	させ、地域社会を支える人材を育成する新学部を設置することとし、この度、本基本計画（改定案）を取りまとめたものです。 新大学には、県内高校生の進学機会を確保し、若者の県外流出を抑制するとともに、地域や産業界が必要とする人材の育成や地域課題の解決に貢献する役割があると考えております。 一方で、18 歳人口の減少が見込まれる中、教育研究の充実を図りながら、将来にわたり持続可能な大学運営を確保することは重要であると認識しております。 このため、県内高校生を中心とした長期的な学生確保の見通しを精査するとともに、学生数が想定を下回る場合も含めた収支や市の財政負担を検証し、あわせて、施設整備費、維持管理費、人件費等を精査し、教育研究の充実と持続可能な財政運営を両立できるよう、引き続き検討してまいります。	無
8	8 ページ	将来的な学生確保の見通しや学生構成、県外学生・留学生の受入れ見込みを含めた長期的な需要予測を示すとともに、学生数が想定を下回った場合の収支や将来の財政負担について十分に検証すべきである。		無
9	8 ページ	新たな 4 年制大学の設置・運営だけでなく、既存大学との連携や奨学金支援などによる人材育成策も検討すべきであり、あわせて女子短期大学跡地の地域活性化につながる有効活用についても検討してほしい。	本基本計画（改定案）では、国公私の枠を超えた大学間連携や産学官連携を推進することとしております。人材育成や地域課題への対応を進める上では、多様な主体との連携が重要であると認識しております。また、奨学金支援を含む人材育成施策や、市立女子短期大学の跡地活用に関するご提案につきましては、今後の取組を進める上での参考とさせていただきます。	無

１０	10 ページ	大学を市内に設置することと、卒業生が地域に定着することは別問題である。若者定着を目指すのであれば、大学教育だけでなく、地域企業との連携や雇用の受け皿づくりなどを含めた総合的な取り組みが必要である。	ご意見のとおり、大学卒業後の地域への人材定着を図るためには、大学における教育のみならず、地域の産業界や行政との連携が重要であると認識しております。 本市では、岐阜市立大学（仮称）の設置目的の一つとして、人材流出の抑制や人材の地元定着、地域課題の解決、地域経済の活性化を掲げています。そして創造理工学部（仮称）では、地元企業、自治体、NPO 等と連携した実践体験型 PBL 教育やインターンシップを実施し、学生が地域の課題や企業活動に触れる機会を設けることで、地域とのつながりを深め、地域で活躍する人材の育成を図ることを目指しております。 また、本市が実施した企業アンケートにおいても、4 年制大学による学生の地元定着の促進や地域産業の活性化への期待が寄せられています。岐阜市立大学（仮称）では、産官学連携による教育研究や共同研究を推進し、地域課題の解決や地域産業の発展に貢献できる人材の育成を目指してまいります。 引き続き、地域の人材ニーズや産業界との連携のあり方を踏まえながら、岐阜市立大学（仮称）の具体的な教育研究内容の検討を進めていく中で、雇用の受け皿づくりなどを含めた総合的な取組について検討してまいります。	無
１１	10 ページ	大学は産学官連携や産学連携に依存するのではなく、研究の成果を自ら事業化して資金を得るべきである。	ご意見にありますとおり、研究成果を自ら事業化し、その成果を研究や教育活動に還元していくことは重要な視点であると考えております。一方で、研究成果の社会実装を進めるためには、事業化の過程においても産業界や行政との連携が重要な役割を果たすものと考えております。	無

１２	10 ページ	本基本計画（改定案）で示す教育環境が必要だと思っていたので、ぜひ中堅レベルの大学以上のものが出来上がると良いと思います。 教育実践者な視点で大学の講師などできたら嬉しいと思いました。	地域と連携した実践的な教育を行う魅力ある大学づくりに取り組んでまいります。また、実務経験や教育経験を有する人材の参画につきましても、今後の大学運営や教育体制を検討する際の参考とさせていただきます。	無
１３	10 ページ	地元企業や自治体との連携、インターンシップや冠講座の実施、AI 分野をはじめとする社会人教員の活用など、地域産業や地域社会との連携方策を具体的に示してほしい。	本基本計画（改定案）では、地域との協働による実践的な学びや高大連携の推進を掲げており、岐阜市立大学（仮称）においては、地域課題の解決や地域産業の発展に貢献できる人材の育成を目指し、自治体、企業、高等学校等との連携を重視したいと考えております。 具体的な連携の内容については、新学部の設置に向けた検討の中で、地域や企業等のニーズの把握に努めながら、インターンシップをはじめとする実践的な教育プログラムや、実務経験を有する人材の活用などと併せて検討を進めてまいります。	無
１４	10 ページ	新大学の大学院は、情報科学芸術大学院大学（IAMAS）との統合を検討するとともに、保健分野の強化に向けて、岐阜市立看護専門学校や岐阜県立看護大学との統合についても検討すべきである。	岐阜市立大学（仮称）の大学院については、研究力向上に向けた取組を図りつつ、小規模からの開始を検討することとしております。その整備に当たっては、新大学の教育研究の特色を生かした体制の構築を基本としており、教育研究上の効果や運営面、地域ニーズ等を踏まえながら検討してまいります。	無

３．教育研究の内容				
１５	11 ページ ～ 14 ページ	岐阜市立大学（仮称）の新学部「創造理工学部（仮称）」において、AI やデータサイエンス、建築等の「実学教育」にとどまらず、国文学、日本美学、地場芸能（長良川鵜飼文化、地歌舞伎・能楽、美濃和紙・和傘・提灯等の美意識）を必修の教養基盤として深く教育に染み込ませることを強く求めます。 特に、1,300 年の歴史を持つ「鵜飼文化」を光学・流体力学・バイオメカニクス・環境評価などの「理工学教育」と融合させ、「岐阜のローカルな強み」と「日本文化の根幹」を体現できるカリキュラムを構築すべきです。これにより、単なる技術習得を超え、岐阜を愛し、ひいては日本を愛し、地域と世界に向けて誇りをもって価値を創出できる特化型人財の育成を実現します。	幅広い教養や地域の歴史・文化、産業に対する理解は、専門的な知識・技術を生かし、地域社会の課題を解決するとともに、新たな価値を創出する上で重要であると認識しております。市立女子短期大学では、岐阜をフィールドとした学びを通して、岐阜の歴史・文化・現状を知ることを目的とする「岐阜学」を実施してきました。新学部では、そうした実績や、いただいたご意見も参考に、今後、具体的な教育課程を編成する中で検討してまいります。	無
１６	11 ページ ～ 14 ページ	データサイエンスは多くの大学が取り組んでいる分野であり、それだけでは特色になりにくい。AI 時代を見据え、技術習得だけでなく数理・統計などの基礎力を重視するとともに、地域課題の解決にどう活用するのかを明確にすべきである。	データサイエンス系コースでは、数理・統計・データ分析等のデータサイエンス教育の基盤となる知識を土台として、情報科学、AI・知能科学等の専門的な教育を提供していきたいと考えております。 その上で、岐阜薬科大学から継続する薬学部との連携を活かし、薬学をはじめとする医療・健康などの分野に加え、建築・デザイン系コースにおける建築やプロダクトデザイン等との分野横断的な学びを特色としたいと考えております。 また、地域課題の解決には、自治体、地域企業、NPO 等との連携が不可欠であることから、実践体験型 PBL やインターンシップ等を通じて、地域課題を発見し、その解決策を社会実装できる人材の養成を目指しております。 今後、地域や企業等の意見も伺いながら、具体的な教育課程を編成してまいります。	無

１７	11 ページ ～ 14 ページ	「県内に建築学科が少ない」という理由だけでなく、地域における人材需要や卒業生の定着可能性を示す必要がある。また、岐阜ならではの特色を持つ教育研究の方向性を明確にすべきである。	岐阜県の建設業は、県内の重要な産業であり、建築業を対象とした意識調査では、多くの事業者が技術者不足を課題として挙げています。 また、関係団体からも、人手不足への対応や若手技術者の確保に向けた大学・高校等との関係強化を求める声が寄せられています。 建築・デザイン系コースでは、こうした地域課題に対応するため、建築・デザインに情報・データの視点を取り入れ、建物・空間・製品等の創造を通じて、人々の健康で豊かな暮らしを支え、地域や社会に新たな価値を創出できる人材の養成を目指しております。 市立女子短期大学が長年培ってきたデザイン教育や地域連携の実績を継承しつつ、関係団体等の意見を伺い、卒業後の活躍の可能性も見据えながら、岐阜の自然、文化、伝統産業などの地域資源を生かした教育課程についても検討してまいります。	無
１８	11 ページ ～ 14 ページ	現在の岐阜市立女子短期大学が持つ繊維・アパレル分野の教育研究は、地域産業と結び付いた特色ある資産である。これを発展的に継承するのか、それとも別の産業分野を育成するのかについて、市の方針を明確にすべきである。	ご意見にあるとおり、繊維やアパレルは本市を代表する地域産業であり、市立女子短期大学では、これらの分野に関する教育研究を行ってきました。 同短期大学が培ってきた教育研究の成果、教員の専門性及び地域産業とのつながりは、重要な資産であると認識しております。 新学部では、これらの実績や教育資源を継承しつつ、建築、空間、製品、情報、デジタル技術を横断する教育へと発展させることが重要であると考えております。 具体的な教育研究の内容については、今後、教育課程を編成する中で検討してまいります。	無
１９	11 ページ ～ 14 ページ	岐阜市立女子短期大学の健康栄養分野に関する知を継承するとともに、岐阜薬科大学と「健康栄養学科」を融合し、ベンチャー企業の起業等の新たな事業展開を検討すべきである。	市立女子短期大学が培ってきた教育研究の成果は、新大学においても重要な資産であると認識しております。	無

２０	11 ページ ～ 14 ページ	岐阜市立女子短期大学の卒業生から高く評価されている講義や研究室は、新大学においても継承すべきである。	新学部では、同短期大学における情報教育やデザイン教育等の実績を継承し、4 年制大学として、データサイエンスや建築・デザインの専門教育に、医療・健康、地域社会等の視点を取り入れた教育へと発展させていきたいと考えております。 健康栄養分野を含む教育研究資源についても、新大学の教育研究にどのように活かすことができるか、具体的な教育課程を編成する中で検討してまいります。 なお、同短期大学の卒業生への対応や新大学との接続のあり方については、新大学の教育内容や教育課程等を踏まえながら整理してまいります。	無
２１	11 ページ ～ 14 ページ	岐阜市立女子短期大学の卒業生が新大学へ編入できる制度を設けるべきである。		無
２２	11 ページ ～ 14 ページ	高齢化の進展を見据え、看護、理学・作業療法、臨床検査、放射線、医用工学などの医療系人材を育成する学部・学科を設置するべきである。また、市立看護専門学校の活用や市内大学との連携・再編も視野に入れながら、岐阜大学や岐阜薬科大学との連携が可能な環境のもとで、少人数教育による質の高い教育研究を展開するべきである。	ご意見のとおり、少子高齢化の進展や地域医療を取り巻く環境の変化を踏まえますと、医療系分野における専門人材の育成は重要な課題であると認識しております。 一方で、県内においては、看護学をはじめとする保健・医療系分野の大学・学部が充実しており、全国的に見ても進学機会に恵まれた環境にあります。 これに対し、理工系分野については、大学・学部等の選択肢が必ずしも十分とは言えない状況にあると認識しております。 本市では、こうした状況や高等学校・企業へのニーズ調査の結果などを踏まえ、データサイエンスや建築・デザインを柱とする創造理工学部（仮称）の開設を計画しています。 これにより、県内高校生に新たな理工系分野の進学機会を提供するとともに、地域や産業界、行政等と連携した実践的な教育研究を通じて、地域課題の解決や新たな価値の創造に取り組む人材の育成を目指しております。 引き続き、創造理工学部（仮称）の開設に向けた取組を進めてまいります。	無

２３	13 ページ 14 ページ	新学部（特に情報系）岐阜大学工学部とも競合し、新設学部の場合は卒後の具体的なキャリアプランが描きにくいことから、何がしかの話題性、学生にとってのメリットが無いと、入学者確保、特に入学者の学力レベル等質の向上が望めない（近隣類似大学とのランク付け、位置付けが不明）。現時点でも岐阜薬科大学と岐阜大学工学部並びに連合創薬大学院において情報系研究の交流が行われているが、創薬にまで至っておらず、単に学部を設置すれば相乗効果が得られるとは考えにくい。どのような人材、教育、学生の確保にもう少し具体性がある方が良いと思われる。折角の機会なので、基本計画の段階から新学部のレベル設定をデザインされておいた方が良いと思われる。	基本計画では、「都市全体をキャンパスとした実践的な教育を通じて、変化の激しい時代の未来を拓き、複眼的な視野と新たな発想力で課題を発見・解決する能力を有する地域社会及び地域経済で即戦力となる人材を養成する。」との人材育成の目標をはじめ、教育の特色など、新大学の開学及び新学部の開設に向けた本市の基本的な方針をお示ししております。 今後、皆さまからいただいたご意見や、高校、企業、関係団体等のご意見も踏まえながら、これらの具体化を進め、魅力ある大学・学部となるよう検討してまいります。 また、県内高校生の大学進学者の約 8 割が県外へ進学している状況を踏まえ、これまで県内に希望する進学先がなく、県外大学を目指していた高校生に新たな選択肢を提供するとの考えの中で、多様な学力層の進学ニーズに対応した進学先としてふさわしい大学を目指してまいります。	無
２４	11 ページ ～ 14 ページ	文理融合教育ではなく、専門性を有する理系高度人材の育成を重視すべきである。	新学部では、データサイエンス系と建築・デザイン系のコースを設け、それぞれの専門知識を活かし、多様な主体との連携により地域の課題を発見し、その解決策を社会実装できる人材の養成を目指しております。 地域課題の解決や新たな価値の創出には、専門知識・技術に加え、社会、経済、歴史、文化、倫理等を幅広く捉える視点や、他者と協働して行動する力が必要だと考えております。 そのため、専門教育と、起業家精神、ソーシャルイノベーション、リベラルアーツ、実用英語等の学部共通教育とを結び付けた文理融合による教育研究を行い、専門性と複眼的な視野を併せ持つ人材の養成を目指します。 今後、社会から求められる分野や人材需要、教育上の必要性、	無
２５	11 ページ ～ 14 ページ	情報系分野については 4 専攻体制とするとともに、数学・理科・情報の教職課程を履修できるようにすべきである。		無
２６	11 ページ ～ 14 ページ	AI やシンギュラリティ時代に対応できる人材を育成するための教育研究を推進すべきである。		無
２７	11 ページ ～ 14 ページ	電力・エネルギー分野の教育を充実するとともに、第一種電気主任技術者の取得につながる教育を行うべきである。		無

２８	11 ページ ～ 14 ページ	サイバーセキュリティ、量子コンピュータ及び金融市場分析に関する講義や研究室を整備し、人材育成を推進すべきである。	実施体制等を踏まえ、将来性や専門性の高い分野も含め、提供すべき教育内容を検討してまいります。	無
２９	11 ページ ～ 14 ページ	情報処理技術とデータサイエンスを活用し、医療・製薬・社会保障制度に関する研究を推進すべきである。		無
３０	11 ページ ～ 14 ページ	生成 AI を積極的に活用した教育研究を推進すべきである。		無

３１	11 ページ ～ 14 ページ	新大学や新学部について、学部名称の意味や設置意義、既存の理学部・工学部・理工学部との違い、将来展望をより具体的に示してほしい。また、3 つのポリシーやカリキュラムの方向性、薬学部との連携のあり方についても明確にしてほしい。	県内では、工学系及び理学系の高等教育機関の定員が県内高校生の進学需要に対して一定程度不足していると試算しており、本学部の設置は、県内における理工系の進学機会を拡大し、県外流出の抑制や県内進学者割合の向上に資するものと考えております。 「創造理工学部（仮称）」には、理工系の専門性を生かし、地域や社会の価値創造に貢献する人材を育成するという意味を込めております。 従来の理学部や工学部のように、理論の探究又は技術の応用を中心とするだけでなく、デザイン力とデジタル技術を基盤として、文理融合や、都市全体をキャンパスとした実践的な教育を行う点を特色としたいと考えております。 カリキュラムについては、学生の専門性を育みながら、地域経済の未来を支え、地域課題の解決を担う人材を育成するため、理論と実践を往還する内容とし、入学者受入れ、教育課程の編成・実施及び卒業認定・学位授与に関する三つのポリシーについても、人材育成の目標から卒業まで一貫したものとなるよう検討し、具体化してまいりたいと考えております。 また、岐阜薬科大学との連携については、薬学をはじめとする医療・健康分野の知見を各コースの教育研究に取り入れるなど、具体的な連携の在り方を検討してまいります。 将来的には、産学官連携による研究力の強化やリスキリング・リカレント教育の充実を図るとともに、大学院の設置についても、小規模な体制からの開始を視野に検討してまいります。	無

３２	15 ページ	市立高校については、少子化や志願者数の減少などを踏まえ、県との役割分担や連携を含めた将来的な在り方を検討するとともに、高等教育との接続のあり方についても検討すべきである。	本市では、新大学を核とした人材育成の充実を図るため、一貫した教育理念のもとで学ぶことができる教育環境の構築が重要であると考えております。このため、本基本計画（改定案）では将来的な附属校（中学校・高等学校）の設置を検討することとしており、高校から大学までを見通した人材育成のあり方について、今後検討を進めてまいります。 なお、市立高校のあり方や施設の活用に関するご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。	無
３３	15 ページ	岐阜市立草潤中学校や岐阜市立岐阜商業高等学校を新大学の附属校として活用するとともに、岐阜市立岐阜商業高等学校に工業科や普通科を増設し、オンライン授業、オンライン試験及び授業の早送り再生を活用した中高大一貫教育や先取り学習を推進し、数学を基礎として物理、化学、生物へと学ぶ理系科目のカリキュラムを検討すべきである。	高等学校との連携・接続については、高校教育で培った力をさらに向上・発展させ、地域や社会の発展に寄与できる人材を育成する観点から重要であると考えております。岐阜市立大学（仮称）では、市立女子短期大学の高大連携事業を継承・発展し、共同授業や出張講義、探究学習支援等に取り組むとともに、将来的な附属校（中学校・高等学校）の設置についても検討することとしております。 また、市民に開かれた大学として、高校生や社会人等の多様な学習ニーズに応えることは重要であると考えております。教育内容や学修機会の提供方法、オンライン技術の活用、高大接続のあり方等については、教育効果や制度上の課題等を踏まえながら、今後の具体的な教育課程や運営体制の検討の中で参考とさせていただきます。	無
３４	15 ページ 16 ページ	中学生、高校生及び市民が大学の講義を視聴できるよう、講義のアーカイブ動画や教材を公開するとともに、飛び入学制度、飛び級制度及び早期卒業制度を導入すべきである。		無
３５	11 ページ	履修登録上限や出席重視の運用を見直すべきである。	教育制度や学修方法、学生支援及び入学者選抜制度については、教育効果や教育の質の確保、また、関係法令や制度、公平性及び持続可能な大学運営の観点を踏まえながら検討してまいります。	無
３６	13 ページ	入学定員を拡大するとともに、通信教育課程の設置や通学することなく学位取得が可能な教育形態を検討すべきである。		無
３７	11 ページ	岐阜市在住の学生に対し、入学金及び授業料を無償化すべきである。		無

３８	11 ページ	大学入学共通テストを課さず、中期日程を中心とした入学者選抜制度とするとともに、薬学部は英語、数学及び化学、「情報系」及び「建築・デザイン系」は英語及び数学による入試とし、入試よりも入学後の教育を重視すべきである。	また、岐阜市立大学（仮称）では、多様な学生の学びの機会を確保し、生涯にわたり学び続けることができる環境づくりが重要であると考えております。 いただいたご意見につきましては、今後の新大学の制度設計や教育課程の検討にあたり、参考とさせていただきます。	無
３９	16 ページ	中小企業の従業員や市民が学び直しやすいよう、数ヶ月単位で特定スキルを習得できる短期履修プログラムを体系化し、「デジタルオープンバッジ（国際標準規格に準拠した受講・スキル証明）」を発行する制度を計画に追加してください。 これにより、地元中小企業での評価・昇給・配置転換とダイレクトに連動させることが可能となり、地域全体の労働力の質向上（P.4 で課題とされている「人材不足（質の不足）」の解消）に直結します。	高度な研究力や教育力を持った知の社会基盤として、市民や企業経営者、従業員に対して、リカレント教育の機会を提供していきたいと考えている中で、その学修成果を可視化することは、地域人材の能力向上や地域産業の発展において重要であると認識しております。今後、ご意見も参考にしながら、短期履修プログラムやマイクロクレデンシャル等について、国の動向や他大学の事例、地域のニーズを調査するとともに、教育内容、受講方法、学修成果の評価・質保証、実施体制及び企業での活用可能性等を踏まえ、新大学に適した仕組みを検討してまいります。	無

４０	16 ページ	人生 100 年時代を見据え、新大学には従来の 18～22 歳を中心とした教育だけでなく、20 代から 40 代など幅広い世代が学び直しできる仕組みを導入すべきである。少子化による学生数減少への対応としても、生涯学習の観点から社会人学生の受入れを積極的に進めることを提案する。 また、地域の小学校の空き教室等を活用した「大学分校」の設置など、地域に身近な学びの場を創出し、学びを通じた地域活性化につなげることを提案する。 さらに、少子化対策や子育て支援の観点から、子育てを単なる休暇制度として捉えるのではなく、親子が共に学び成長する新たな子育て支援・親育ての仕組みを構築し、大学においてもその研究や教育に取り組むべきである。 新大学の設計に当たっては、現在検討されている学部構成のみで岐阜市の将来像が描けるのか疑問があり、人生 100 年時代に対応した新しい学びのあり方や人材育成の視点をより重視すべきである。	人生 100 年時代の到来や社会環境の変化を踏まえ、多様な世代が学び続けることのできる環境の充実は重要であると考えております。 本基本計画（改定案）においても、地域や企業等との連携を通じて学びの機会の充実を図り、地域社会の発展に貢献できる人材の育成を目指しております。 なお、地域における学びの場の創出や生涯学習の推進に関するご提案については、今後の取組を進める上での参考とさせていただきます。	無

４．新大学の運営				
４１	17 ページ	単なる就職・インターンシップ支援にとどまらず、「オープンイノベーション・スタートアップラボ（仮称）」としての機能を明記してください。 具体的には、企業や自治体が持ち込んだリアルな課題データに対し、データサイエンス系・建築デザイン系の学生と地域企業が共同で試作・実証・起業検討を行える「共創型コワーキング／インキュベーション空間」を香蘭キャンパス（および中心市街地サテライト）内に確保・設置することを盛り込むべきです。	産官学連携を、就職支援やインターンシップにとどめず、企業や自治体等と学生・教員が地域課題の解決や新たな価値の創出に取り組む場へ発展させることは重要であると認識しております。 また、実践型 PBL 教育等を通じて、学生と地域企業とが共同で試作や実証、起業検討を行う機能は、望まれるものの一つであると考えます。 一方、「産官学連携・キャリアデザインセンター」などの附属施設の設置につきましては、岐阜薬科大学の既存の組織の活用も含めて、今後、検討することとしており、ご意見も参考にしながら、地域のニーズや先行事例、教育研究上の必要性、施設整備、運営体制及び費用等を踏まえ、具体的な機能や取組のあり方を検討してまいります。	無
４２	17 ページ	世界的な潮流に合わせ、地元 IT 企業、製造業、建築設計事務所、行政機関との間での「真のクロスアポイントメント（双方向の人財循環）」を推進する方針をより強く打ち出してください。 民間企業の先進的エンジニアやデザイナー、起業家が「週 1～2 日、大学で教鞭を取り研究に従事する」、逆に「大学教員・学生が企業の DX・製品開発プロジェクトに直接参画する」といった流動性の高い制度設計を明記することで、常に最先端の技術と産業ニーズが教育現場へ直接導入される仕組みを構築すべきです。	企業、自治体、大学等の間で人材が交流し、実務の知見や先端技術を教育研究に取り入れることは、実践的かつ魅力ある教育を行う上で重要であると認識しております。 今後、クロスアポイントメント制度や実務家教員雇用の高度化・柔軟化につきましては、ご意見も参考にしながら、先行事例や関係法令を調査するとともに、雇用・勤務条件、教育上の位置付け、利益相反、知的財産及び秘密保持等の課題を整理し、具体的な制度や連携のあり方を検討してまいります。	無

４３	17 ページ	岐阜薬科大学については、全国的にも高い教育研究水準を有する大学であり、その価値を低下させることなく、他大学との連携強化などを通じて、さらなる発展や機能強化を図るべきである。	岐阜薬科大学は、長年にわたり高い教育研究水準を維持し、優れた薬剤師や研究者を輩出してきた本市の重要な教育研究機関であり、その強みや特色を今後も維持・発展させていくことが重要であると考えています。 また、大学間連携については、これまでも他大学との連携を進めてきており、今後も教育研究の充実や地域課題の解決に向けて連携を推進してまいります。 大学の統合は、岐阜薬科大学の教育研究機能やブランド価値を損なうものではなく、その強みを基盤としながら、新たな学部を加えることで学びの領域を拡充し、本市の高等教育機能を強化するものと考えています。岐阜薬科大学の特色ある専門教育を維持するとともに、文理横断・学際的な学びを展開することで、地域や産業界のニーズに対応した人材育成を進めてまいります。	無
４４	17 ページ	大都市圏の大学の講義をオンラインで受講できるようにすべきである。		無
４５	14 ページ 15 ページ	新学部では相当数の教員を新たに確保する必要がある一方、特に情報系分野では全国的に教員不足が続いていることから、計画どおりの採用が実現できるのか懸念があります。他大学では学部新設に向けて中心的人物が早くから準備を進めた事例もあることから、教員確保に向けた具体的な方策や体制を明らかにし、着実に準備を進めるべきです。	ご意見のとおり、新学部の開設に向けては、データサイエンス系コースのみならず、建築・デザイン系コースとも併せまして、必要となる教員を確実に確保し、着実に準備を進めることは重要であると認識しております。 今後、教育課程や教員組織を具体化する中で、学部運営の中核を担う教員を含め、必要な専門分野、人数、採用時期等を整理するとともに、大学や企業等からの人材確保や実務経験を有する人材の登用も視野に入れ、計画的に教員の確保を進めてまいります。	無
４６	14 ページ 15 ページ	若手研究者や大学教員の確保が課題となる中、教員確保に向けた計画や教員組織の整備についてもしっかりと検討いただきたい。		無
４７	17 ページ	岐阜市立女子短期大学の教職員の雇用や処遇に十分配慮すべきである。	市立女子短期大学の教員の雇用や処遇については、各教員がこれまで培ってきた教育研究上の実績や専門性を考慮し、関係各所との協議・調整を進めるとともに、関係法令等を踏まえながら適切に対応してまいります。	無

４８	14 ページ 15 ページ	学生確保計画におけるアンケート調査の実施内容や対象範囲について示してほしい。その際、育成する人材像や国家資格取得支援、単位認定制度、就職支援、高大連携やリカレント教育などの具体的な取組についてアンケート対象者に示してほしい。	学生確保に関するアンケート調査は、大学設置認可申請に係る手引きに基づき、対象地域を選定した上で、新学部への入学意向等を把握することを目的として実施する予定です。 アンケートの実施に際しては、より多くの高校生に新学部への理解を深めていただき、進学先として関心を持っていただくことが重要であると考えております。 そのためには、ご意見にもありますように、育成する人材像をはじめ、教育内容、学習方法、学生支援などについて具体的にお示しする必要があることから、可能な限り早期にお示しできるよう、引き続き、検討を進めてまいります。	無
４９	18 ページ	岐阜市立女子短期大学の卒業生として、大学がなくなることを残念に思います。新しい大学においては、学生の人権尊重やハラスメント防止、適切な学生支援の充実を図り、誰もが安心して学べる教育環境を整備していただきたいと考えます。	学生及び教職員が安心して学び、働くことができる環境を整備することは重要であると認識しております。 新大学においては、人権を尊重した教育研究環境の確保に努めるとともに、ハラスメントの防止及び早期対応を図るため、適切な相談・支援体制の整備を進めてまいります。 また、教育研究活動や大学運営においては、透明性の確保と適切なガバナンスのもと、公正で信頼される大学運営に努めてまいります。 いただいたご意見につきましては、新大学の運営体制や学生支援体制を検討する際の参考とさせていただきます。	無
５０	18 ページ	新大学の設置に当たっては、学生・教職員が安心して学び、働くことのできる環境を確保するため、透明性の高い組織運営と適切なガバナンス体制を構築すべきである。併せて、ハラスメント等の人権侵害に対して被害者保護を最優先とした適切な対応が行われる仕組みを整備し、信頼される大学運営を実現してほしい。		無

５．キャンパス・立地、費用				
５１	19 ページ	新学部のキャンパスについて、岐阜市香蘭の既存施設をコンバージョン（用途変更を伴う改修）により活用する方針については理解できるが、教育施設への転用には大規模な改修や高度な設計上の調整が必要であると考える。施設改修の規模や手法を適切に見極めるため、施設運用の検討段階から改修に関する専門知識を有する設計者を参画させ、十分な検討と準備を進めるべきである。	新学部の施設整備にあたっては、既存施設の活用を含め、施設の状況や機能、事業手法等を総合的に勘案しながら進めることが重要であると認識しております。 また、施設整備に係る諸条件を踏まえながら、適切な施設整備のあり方について検討を進めてまいります。 いただいたご意見につきましては、今後の施設整備を進める際の参考とさせていただきます。	無
５２	19 ページ	新学部のキャンパス整備に当たっては、高校生が「学びたい」と感じる魅力的な空間づくりを重視すべきである。アクティブラーニングや共創を促進するコモンスペース、学生の居場所や交流拠点となるコミュニケーションスペースなど、近年の大学キャンパスに求められる機能を充実させ、後発の新学部だからこそ実現できる特色あるキャンパスとすることで、近隣大学との差別化を図るべきである。	新学部の整備にあたっては、教育研究環境の充実とともに、学生が利用しやすく、快適に学ぶことのできる環境づくりが重要であると認識しております。 また、近年の大学施設においては、交流や学習活動を支える空間、多様な活動に対応できるスペースなどが求められているものと認識しております。 いただいたご意見も踏まえ、新学部の特色を活かした学修環境の充実に配慮しながら、施設計画・設計を進めてまいります。	無
５３	19 ページ	新学部の建築・デザイン系コースにおいて、「プロダクトデザイン」や「伝統工芸」に関する専門教育を充実させるためには、木材、金属、プラスチック等を扱う工房や設備、技術職員の配置に加え、3D プリンタやレーザー加工機等のデジタルファブリケーション環境の整備が必要である。近隣大学等の事例を参考にしながら設備整備の方針を検討するとともに、デザイン分野を志望する高校生にとって魅力ある教育研究環境を整備すべきである。	設備環境をはじめとする教育研究環境の充実は、教育研究の質の向上を図り、意欲ある学生を確保する上で重要な要素であると認識しております。 今後、教育課程の編成を進めていく中で、近隣大学の動向や教育研究上の必要性なども踏まえながら、建築・デザイン系コースのみならず、データサイエンス系コースも含め、多くの学生に選ばれ、地域社会の発展や地域経済の活性化に貢献する人材を養成できる魅力ある教育研究環境となるよう、検討してまいります。	無

５４	19 ページ	既存商業施設を活用したキャンパス整備について、新大学の魅力やブランド力、学生が誇りを持って学べる教育・学習環境の確保につながるのか疑問であり、再検討を求める。	新学部の施設整備については、教育研究環境として必要な機能や性能を確保するとともに、多くの学生に選ばれる魅力ある学修環境となるよう検討してまいります。 また、整備手法や施設構成については、教育研究上の必要性や将来的な活用も踏まえながら検討してまいります。	無
５５	19 ページ	新学部開設後も新キャンパスへの移転まで一定期間を要する計画となっており、新学部の一期生が新キャンパスを利用しないまま卒業する可能性があります。そのような環境で新学部の理念に沿った教育を実現できるのか疑問であり、キャンパス計画については行政上の都合だけでなく、学生の学修環境や教育効果の観点を十分に考慮すべきです。	新学部の教育については、新キャンパスへの移転までの期間も含め、学生が充実した学修環境のもとで学ぶことができるよう、必要な教育環境の整備に取り組んでまいります。 また、新キャンパスについては、多様な学びや交流を促進する教育研究環境の実現を目指し整備を進めることとしており、段階的な整備の過程においても、新学部の理念に沿った教育を着実に実施できるよう努めてまいります。	無
５６	19 ページ	香蘭地区への新キャンパス整備は行わず、既存施設を活用するとともに、優秀な大学教員、良質な講義、教材、実験設備、図書室、オンライン教育システム、給付型奨学金制度及び学費減免制度への投資を優先し、研究成果の事業化や起業家育成等により資金を確保した上で、施設整備は将来的に検討すべきである。	本基本計画（改定案）では、岐阜薬科大学の既存の三田洞キャンパスを活用し、新学部を開設することとしております。 今後、同キャンパスでの開設に向け、必要な施設・設備の改修内容や規模、整備費及び維持管理費等を精査し、費用対効果等を踏まえて施設整備手法についても十分に検証し、学生及び教員にとってより良い教育研究環境となるよう、施設整備を進めてまいります。	無
５７	19 ページ	PFI の導入を見直すとともに、岐阜市 PPP/PFI 手法導入優先的検討に関する指針の廃止について議論し、PPP/PFI 導入可能性調査は外部委託ではなく、市職員が人工知能等を駆使して実施すべきである。		無
５８	20 ページ	三田洞キャンパスでの早期開学には一定の合理性があるが、その後の香蘭移転を前提とするのではなく、一日市場キャンパス活用案も含めて比較検討すべきである。教育研究環境、学生生活、将来の拡張性、財政負担などを総合的に比較し、市民に示した上で判断することが望ましい。	新学部の立地については、「都市全体をキャンパスとする」理念のもと、市中心部を基本的な方向性として施設整備の検討を進める方針に変更はありません。キャンパスの整備に当たっては、今年度実施した岐阜市香蘭地区の既存施設に係る調査等を踏まえつつ、教育研究環境、地域との連携やまちの活性化、学	無

５９	20 ページ	創造理工学部のキャンパスを岐阜市役所旧南庁舎や岐阜メルサの建物を改修により整備するべきだ。これにより、岐阜市のセンターゾーンの１つである柳ヶ瀬エリアの活性化や来街者数の増加につながる。JR 岐阜駅からも徒歩で 15 分程度で岐阜バスの路線が多く通っているため、利便性が高い。 柳ヶ瀬エリアに学生寮や交流場所、勉強などができるフリースペースを備えたサテライトキャンパスを整備するべきだ。柳ヶ瀬の空きビル・店舗を活用することで、整備費を削減することができる。柳ヶ瀬エリアの若者の居住人口増加につながる。	生の通学を含めた利便性など総合的な大学の魅力向上のほか、将来的な拡張性や整備費・維持管理費などの観点も十分考慮し、大学施設としての適地を検討してまいります。	無
６０	20 ページ	オーキッドパークは地域住民、特に高齢者にとって重要な商業施設であるため、その機能を維持すべきである。また、理系学生の増加に伴う学生アパートの不足が懸念されるほか、三田洞キャンパスについては交通利便性や生活環境の面で課題があるため、学生の居住環境や通学環境を含めて立地を再検討するべきである。さらに、新学部は岐阜大学、岐阜大学病院及び岐阜薬科大学との連携が図れるエリアに整備し、公共交通の充実も検討するべきである。		無
６１	20 ページ	オーキッドパークは周辺住民や高齢者等の日常生活を支える重要な商業施設であり、大学整備に伴う商業機能の縮小・喪失による生活環境への影響を懸念する。代替となる買い物環境や支援策を示してほしい。		無
６２	20 ページ	大学整備に当たっては、オーキッドパークの活用よりも、高島屋跡地や繊維問屋街など中心市街地の再生やにぎわい創出との整合性を重視すべきである。		無
６３	20 ページ	学生や若者にとってもオーキッドパークは重要な生活利便施設であり、地域住民や学生双方の視点に立って計画を見直してほしい。		無

６４	20 ページ	三田洞キャンパスと香蘭キャンパスの２キャンパス体制については、学生や教職員の移動負担などの課題が懸念されるため、十分な検討を求める。また、大学の立地については、中心市街地への設置の方がまちの活性化に寄与するのではないか。	新学部については、早期開設と将来的な施設設備の両立を図るため、新学部は当面、岐阜薬科大学三田洞キャンパスを活用して開設することとしております。 他方で、教育研究、地域貢献や地域の活性化、通学利便性等の観点から、本市中心部に立地することが、総合的な大学の魅力向上につながるものと考えておりますことから、これを基本的な方向性として、引き続き、具体的な検討を進めてまいります。	無
６５	21 ページ	現実味のある計画になったと思います。それ故に準備期間が短く、様々な点において調整が大変かと思いますが、実施に向けて頑張ってください。 諸物価高騰の折、整備費の高騰も予想され、財政面の課題が想定されます。関係者との協議をしっかり行い、魅力あふれる新大学開設へと進めて頂きたい。	新大学の整備及び運営に当たっては、教育研究の質を確保するとともに、持続可能な大学運営を実現することが重要であると認識しております。 施設整備費や維持管理費、人件費などについて十分に精査するとともに、社会経済情勢の変化も踏まえながら、計画的に事業を進めてまいります。 また、学生確保の見通しや教育研究体制の充実、学納金のあり方などについても総合的に検討し、安定した大学運営につなげてまいります。 いただいたご意見につきましては、今後の施設整備計画及び大学運営の検討を進める際の参考とさせていただきます。	無
６６	21 ページ	新大学の設置に当たっては、国や県、他大学との連携を重視するとともに、将来の財政負担や学生確保、大学運営の見通しについて十分な検証を行い、その内容を市民に分かりやすく示すべきである。		無
６７	21 ページ	薬学部との連携を前提とした理系総合大学化について、財政負担や運営の持続可能性を十分に検討するとともに、大学全体の財政見通しを示してほしい。		無

６．新大学開設のスケジュール				
６８	22 ページ	令和 11 年度の新大学開設を目指すスケジュールについて、準備委員会でも「ほとんど時間がなく、かなり厳しい日程」との指摘があったにもかかわらず、岐阜市から実務的に問題ないことを示す具体的な説明がなく、実現可能性に懸念があります。他大学の事例も踏まえ、手続きに瑕疵が生じることのないよう慎重に進めるべきです。	岐阜市立大学（仮称）の開学に向けては、大学設置に必要な手続や準備に係るスケジュールを十分に踏まえながら検討を進めています。今後も、国や関係機関との協議を適切に行いながら、開設に向けた準備を着実に進めてまいります。	無